

トランクー 無意識の恋

1話〜7話までのラブを意識していない感じの初期の段階のエピソードです。

／原作通り（ほぼ原作のセリフに関しては【】をつけます。）

／夜の虫の音の環境音

／マイク左前15cm付近をうろろ

【しかし、お兄さんラッキーですねえ

これでも私 美少女ピアニストとして結構有名だったり？

そんな私に、個人でこんな風に弾いてもらえるとは幸運ですよ？】

え、部屋で弾いたらどうだって？

ダメです。

／（自分のピアノで本当に人が癒せているか気になる）

…今日はちゃんとお兄さんが寝てるか確認するんですから。

んふふ。ほーら、眠くなってきましたねえ。

瞼が重たくなってきましたね。

どーですかあ？ もう我慢できないですかあ？

ああ…顔が近い？

ふむ…。

…。（悪い考えがよぎる）

／＼左耳元へ うざめ 有声音 無声音 5..5ぐらい。

あるえー 音楽があれば楽勝で寝れるんじゃないかなったんですか？

それとも こーんな美少女が隣にいちやあ、眠れるものも寝れないですかあ…？

おにーさんには ちょーつと刺激が強すぎましたかねえ？ くすくす…。

ふー…。

／＼左前15cm

黄色はサークル主（カマキリ）が書いた台本初稿です

赤字は原作者たけみつさんに修正していただいた部分です。

クスッ 思った通り。緊張してらっしゃるんですね。

いつも怖い済まし顔のおにーさんがあわててるの面白いです。

くくっ、もしかして緊張してますかー？

おにーさんが慌ててるのは、見えて面白いですねー。

／＼だんだん 左耳元へ 。

／＼だんだんささやきは無声音強めで

でもリラックスしてもらって大丈夫ですよ。

誰もあなたの寝顔が見たいわけじゃないです。

ほんとーにちゃんと寝れてるかどうかみたいだけなんです。

別に寝顔見たりとかはしないんで。たぶん。

寝てるかどうか確認するだけですよー。

ふう…ふう…ふう…ふう…

（吐息20秒）

／＼お兄さんが手元を見てないことを指摘。

ん？ 手元を見なくても弾けるのがすごいって？

言ったじゃないですか。わたし 天才ピアニストだって…。

まあお勉強は少しばかり苦手ですが…こっちはずっとやってきたんで…。

私にかかれれば目をつぶってたって大抵の曲はひけちやいます。（自慢げに）

／＼ 30秒ぐらい無言でキーボードを弾く

ところで…。

今は動画サイトに不眠用の音楽とか安眠できる環境音とかありますよね…？

そーいうのは聞かないんですか？

／＼自分じゃなきやダメだと言われてる 嬉しかった。

へえ、試したけどダメだったんですね…

…。

／＼ぼそっと。ここだけちょっとマイクから離れてください。

ほ、ほうほう、わたしの音が気持ちいい っって言ってくれたのは嘘じゃないってことですか…。

／＼嬉しい気持ちをごまかすように

【いえ、お兄さんは、私の音があまりに心地よすぎて

ハゲそうなぐらい悩んでいた 不眠症すら、解消してしまったということですか。

自分の才能が怖いですねえ】

くすくす…しょーがないですねえ…

／＼ うざく 気持ち有声音多めのささやき

【お兄さんは私の…わ・た・し・の 音楽がないと寝れない、赤ちゃんですからね…？ 私みたいな可愛くて優しい女の子が隣でよかったですね…？

一生分の運を使い果たしましたか…？

嬉しいですか…？ 喜んできますか…？

ね…お兄さん。ね…ね…。】

／＼ 左前10cm

う、うざい！？ うざくないっ！うざくないでしょうがあっ！

そりや聞こえてますよお。こちら耳はすこぶるいいんですから、舐めないでいただきます
い。

地獄耳とか言うなし！

まったく…。

でも、そんなに気持ちよく寝れるんだったら…

／＼ 左耳元で どきつとするように。

毎日弾いてあげてもいいですよ…。

だっておにーさん言ったじゃないですか…。

／＼優しい雰囲気で ゆっくりと。

聴いてると幸せな気持ちになるって。

今どんな気分ですか…？

私は… 案外悪くないですよ…。

見ず知らずのおにーさんに演奏を聞かせるのも、

私のピアノで眠れない人が気持ちよく寝始めてるのを見てるの…悪くないです。

おにーさんに、私の音聞いてもらうの、

まあ…なかなか…悪くないかなー、と…。

(吐息30秒)

／＼無言でしばらくピアノを弾く

ふーーーーー。

おや、もう動かない？

／＼嬉しくてあったかい気持ちになってる。

ああ…ホントに、私の音で寝ちやうんだ。

面白いですね…。おにーさん。

ふーーーーー。

ふふ…。

安心して寝てください。

不眠症か…。

私もいつか眠れなくなる日があるんですかねえ…。

多分 おにーさんほど心配性じゃないですが寝れなくなるってのはわかりますよ…。

音大に入れたのはよかったけど、これでよかったのかなあ…とか…私もときどき思ったりします。

だけど、おにーさんの寝顔見てたら

これでよかったんだなって…少しだけ自信が出ました。

大学入って、一人暮らし始めて…まあ、結構不安になったり、しまして。

でも、おにーさんの能天気な寝顔見てたら、

そんな不安も、馬鹿らしく、思えまして。うん。

ご飯 ごちそうさまでした。

私の音を聴いてると幸せな気持ちになる。

【そんな事言われたら、条件なしでもいくらでもひいてあげたくなりそうですけどねえ…。】

…美味しかったですよ。また食べに来ます。いーですよね？

そーいう約束ですもんね？

ふー……。

おやすみなさい、おにーさん。

トラック♪ 恋心

12話以降のラブを意識して琴音ちゃんがたじたじになっていく段階でのエピソード

／／ 元氣よく おらぁ！という気迫で

／／ 正面 30cm

【スヤスヤの時間だぁ！】

さぁ寝ますよ！寝かしつけますよお！

なっ！

布団からいい匂いですと！？

／／ この日に琴音ちゃんがベッドで寝ていたからいい匂いがする

黄色はサークル主（カマキリ）が書いた台本初稿です

赤字は原作者たけみつさんに修正していただいた部分です。

お、お兄さんは変態ですかっ！

そんなこと言うならもうピアノ弾いてあげませんよ。

わ…わかればいいんです。

さぁ、さっさと目えつぶって寝てください。

ほ、ほー、いいにおい…いい匂いに感じてくれるんですね…。

いや、まあ、それはおいておいて。

ほ、ほらほら、寝ますよー。ピアノ弾きますよー？

／／ 小声で

びっくりした。案外そういうのって残るんですね…。

まさかおにーさんの留守中にベッドで寝てたなんて口が裂けても言えません…

／キーボードで演奏開始

／しばらく無言

／左前30cm 照れてるので以前より距離があります。

【…ね、ねえ。お兄さん。】

お兄さんはもちろん私の名前をご存知ですよね？

い、いーからほら、呼んでみてください。

まさか知らないなんてことー】

／間6秒ぐらい

【うーわ、うーわ。マジですかぁ この人。

こんだけ一緒にいるのに名前ではばれたことないからまさかと思いましたか】

え…。

おにーさんの名前は知ってますよ。

たりめーです。

当然です。

／原作では哲也さんと呼んでますが、個人名を呼ぶと視聴者が没入感を損ねてしまうので誤魔化させてください。

えと、その… ーさん…。(ごによごによでごまかす)

いえ！今いーました。いーましたから。

名前で呼ぶのが恥ずかしいなんて あるわけないじゃないですか。

なんで知ってるのかって…！？／

それは…その…なんだっていいでしょ〱

ストーカー！？ちがつ！

【いいですか？

ストーカーというのは…気づいたら、部屋の中に侵入していたり

知らないうちに、布団に入り込んでいたり

寝るときも、気づいたら傍で寝顔をのぞき込んで…みたいな、そういう人のことを指すんです。】

ね。 怖いでしょ？ 私とは全く無関係でしょ？

〱 少し間を置きます

【琴音です。

…私の名前。

お琴の琴に、音色の音。】

覚えましたか？

〱 意地でも名前で呼ばせたい琴音ちゃん

名字…？

【あ、あー、そうですねー。名字は、まあ…覚えなくてもいいのでは？

名前だけで人は識別できますから

それにお兄さん、名字まで覚えきれないかもですし〱】

別に馬鹿にしてるわけじゃないです。

…〱

【いいからいいから！

苗字なんてそのうち変わるんですから！（願望）

話をそらさないで、ほら、もうピアノ弾きませんよ！

【名前！呼んで下さいっ！私のなーまーえー】

／＼呼ばれる

／＼ピアノを止める

っ／

／＼頭が火が出るほど恥ずかしい。

な、なな、なあに照れてるんですかあっ！

そんなに照れると、こっちまで恥ずかしくなるじゃないですかっ／

はあ…はあ…はあ…。

／＼心を落ち着けるためにピアノを弾くのを再開

（名前呼んで…くれた…）（心の声 読んでください 心の声があるのはここだけです）

なんですか…人の顔じろじろ見て／

いつもより心なしか距離が遠いと感じるって…

私が常におにーさんのすぐそばにいるなんて思ったら大間違いです。

それともなんですか…。

息がかかる距離に來いって…ことですか／？（言っていない 勝手に都合よく解釈してる）

／＼合法的に近寄りたいが、恥ずかしくて距離を縮めづらい

別におにーさんがその方がよく眠れるってんならやぶさかでもないというか…／

いつもおいしいーご飯食べさせてくれますし…／

／＼左耳元へ

「…これで…満足ですか…／＼」。

はあ…はあ…ピアノを弾かせたうえに美少女の吐息がないと眠れないなんて…

こんなこと他の女の子に頼んだら通報されてしまいますからね…

絶対、絶対ダメですから…／＼

話を聞けって…？

うるさい！いーからさっさと寝てください。

じゃ、若干近いかもしれませんが、このぐらいが適正距離かと…

吐息がうるさい？ い、いやいや、そこは喜ぶべきところでは？

ほら、いいから、ねーてーくーだーさーい。

／＼しばらく無言でピアノを弾く

／＼自分の心を落ち着かせるように。

ふう…ふう…ふう…ふう…

(吐息30秒)

ん…寝息…？

おにーさん もう眠そう…。

／＼独り言で小さな声で 少し耳から離れて

寝れるん…ですね…。

こんな近くににいるのに…。 (少し寂しい)

／＼ だんだん落ちて着いてきた。 耳元へ寄る

いえ…。それならそれでいいんです。

万が一寝れなくなってしまったら、私がここにいる理由がなくなっちゃいますからね…。ふふ。

は————。

は————。

この前だつてホラー映画見た時自分だけさつと寝ちゃうんですから…。

…私がいるのにすぐ寝ようとする…。から。（明らかにさびしげに）

／＼ お兄さんは眠りかけているけど、話していたいから敢えて話しかけています。

／＼ 左前10cm

…。

【ねえ…お兄さんはその…

運命の相手とか、どう思います？】

実はわたし 高校時代ちーさんに運命の人のことを占ってもらったんですよ…。

それが、なんていうか…よく当たるんですよねえ。ちーさんの占い。

そーいうの信じるの 意外ですか？

いいでしょ 女の子らしいでしょうが…。（少し不機嫌そうに）

え…。

／＼お兄さんと同じで占いなんて信じてない質だと言われた

そ、そうですかね！？　そうかもですねえ。

たしかに私がおにーさんと似たところあるから意外に聞こえるかもですが…

私にだってそーいう占いにあやかりたくなるときはあるんですよ？

／＼しばらくピアノを無言で弾く。

…らしいです。

大学入ってすぐ、運命の人に会える…らしいです／＼

／＼お兄さんは眠そうに聞いている。

／＼ピアノで寝てくれるのは嬉しいが、もっと話を聞いてほしい。

…さあ。どうでしょうね…。

／＼しばらく無言でキーボードを弾く

もしかしたらもう会ってるかもしれないですよ…？

あれ…

おにーさん。　おにーさん。

もう寝た？

／＼左耳元へ

…ふーーーーー。

寝てる？

…寝てます…ね。

／＼ピアノを弾くのをやめる

はぁ。しょうがないなぁ。

この寝顔見てたら、なんだか馬鹿らしくなってきました。

【ふふ…、好きすぎるんだよなぁ。寝顔…。

ずっと見てしまいます…。】

いいですよね…？

(耳元吐息90秒)

おやすみなさい…。

今日も無事寝れてよかったですね。

手…あったかいや…。

運命の人…か。

⋮ お兄さんが眠れなくなった？

28話以降の眠れなくなっただけです。

／／ 正面30cm

【修行を積んでまいりました。

今日こそは絶対、お兄さんに安眠を差し上げましょう】

【大丈夫です。 私なら…いや、私にしかお兄さんの不眠症は直せませんから】

【さあさあ寝ますよ！ ほら、睡眠は遊びじゃないんですから！】（若干キレ気味）

／／ BGM開始 ヒーリングミュージック

／／ 左前20cm

前まで信じられないぐらいぐっすり寝てたのに、

いったいどうしたんですかねえ…。 まったく。

え…あ、はい。 動画で聞いてヒーリングミュージックを予習してきました。

こーい感じの曲がいいのになって…まあ曲は私のオリジナルですけど。

…何こっち見てるんですか？

私は本気で寝かしつけようとしてるのに…。

寝る気ゼロですか！？

／／ 少しいじらしく

もしかして…私のピアノじゃ もう寝れないって思ってますんか？

／＼ 悲しそうに

それならそれで仕方ないです。

でも、私は私で本気ですからっ／＼

…ちよつといいですか…。

／＼ 左耳元へ （恥かしいけど寝かせたいから）

こ…これなら…寝れるかもしれません…。

はあゝゝ はあゝゝ はあゝゝ。 （2，3秒の中程度の長さの吐息）（

お兄さんの耳元でおしゃべりしたり、ふーってしたり…。

安心して寝てたでしよ…。

試してみましょ…ね？

いいから／＼…やらせてください。 （少し泣きそうな声で）

ふー…。ふー…。ふー…。 （4ゝ5秒の長めの吐息）

は……。は……。は……。

あったかいですか…。

リラックスしてください…。力抜いて…。

は……。は……。は……。

／＼ ぼやくように、ゆっくり、ゆったりと…

私、小さいころからピアノが好きでずっと弾いてました。

皆の驚く顔とか、さすがことねちゃんだねゝとか、

ピアノを弾いているときはみんな私のことを「凄いな」って言ってくれるんです。

：誇らしかったです。

ただやってて辛いなと思うこともあって…

先生からこういう風に弾きなさいとか、コンクールのためにはこっちの曲の方がいいからとかであんまり好きじゃない曲も弾いたりしました…

それに…どれだけ凄いか、感動したとよって言われても、

上には上がいて…自分の無力さを思い知る時があります。

私、昔からピアノは好きで、ずっと弾いてて。

まあ、才能ありましたし？ みんなから凄く凄いの嵐ですよ！

ただ…やっぱり、やってて辛い時とかもありまして。

先生からこういう風に弾きなさいー、とか、コンクールのためにはこっちの曲の方がいいからー、とか。あんまり好きじゃない曲も、弾かされたり。

そういう時は、なにやってるんだろうなー、とか…思ったり。

はー。はー。はー。

自分はピアノが好きだから…

自分の為に、自分の為だけに演奏が出来たらそれでよかったんです…。

いつかはそれが誰かの力になって…

できれば何にも縛られないで好きなようにピアノを弾きたい。

私が音を追求していれば いつかは誰かが私のことを見てくれる…。ふふふ…。

ちよろあまですよね…。

もちろん、ピアノは好きですよ。

自分の好きなように演奏出来たら、それだけでよかったんです。

ほんと、自分の為だけに弾けたら、それだけで…でも。

ふー。ふー。ふー。

そんな自分のことしか頭になかった私が、今こんなことをしてるなんて 変ですね。

おにーさんを寝かしつけるために、自分のプライドとか主義とかも全部棄てて、なんでもやろうなんて…。

ちよっと前の私なら考えられませんでした。

はー。はー。はー。

ぬくい…ですか…？

ほっとしますか…？

寝れそう…ですか…？（聞くのが怖い 自分の存在意義を問う質問だから でもちゃんと勇気を振り絞って聞いてます）

嘘です。

わかりますよ…。

どれだけあなたの寝顔を見てきたと思ってるんですか？

いくら目を閉じてても、

ほっとして寝ているときのおにーさんとの違いぐらい分かりますって。

でも、続けます。

続けても…いいですよね？（寂しげに）

はい…。

は……。は……。は……。

(吐息30秒)

…おにーさん。

さつき言いましたが、自信なんてあるような不確かなものです。

けれどわたし…お兄さんの不眠症を解消できて、もっと頑張らなきゃなって思ったんです。自分の手で誰かを癒したり、変えることができるって体験ってしたことなかったなあって…。

これまで、私はなにかしているようで、何もしてなかったってことに気づいたんです。

…私がどれだけ嬉しかったかわかりますか…？

音が気持ちいいって…。

私のピアノじゃなきゃ眠れないって言われて…。

私はピアノが好きで弾いてきたけれど、

ああ…これまで弾いてきて間違いじゃなかったんだなあって…

ようやく認められたんですよ…。自分で自分のこと。

は……。は……。は……。

／ 左前15cm

ごめんなさい

…やっぱり…寝れないですね…。

え…今日はもういい…？

…ない。

よく、ないですっ！

／＼さらに少し距離をあける　だんだん正面30cmへ

【わたし　お兄さんと離れたくないっ…です】

／＼（どうしよう、引かれたかも、嫌だ…）

【あ…　えっと…離れたくないっていうのはその…。】

…。

／＼（嫌だ…そばにいさせてほしい）

【お兄さんのご飯、ほんとに美味しいから…

なのに、私がお兄さんの不眠症を解決できなかったら

私から返せるものがなくて…】（泣きそうな感じで）

音楽もダメになったらお兄さんが離れてくんじやないかって…。

…。

好きな…女？

それって…え…私が？

自分のご飯を美味しそうに食べてくれるのがそんなに嬉しかったんですか？

でもでも、そんなのはお兄さんのご飯が美味しいから当たり前で…。

そんなんで…いいんですか…。そばにいて。

ぞっこん…て…　え…ええ！？

【へんじ…！？】

ああ…へんじっ…へんじ…

そ　ですね…その、じゃあ…

けっこん…します。　はい。】

【え？お付き合いから―？　ああ、そっか。そ、そうですね…。

――とんでもなくテンパってます。

えと、じゃあ不束者ですが、よろしくということ…。

ええ…とりあえずお付き合いするってことで――

今日はもう遅いですから…　え？　また弾くんですか？

でも…お兄さん眠れないじゃないですか。】

あ…寝れなかったのは私にどうやって告白するか考えてたとか…

そ、そんなアホなこと…。

そんな素敵な…や、しよ、しよーもないこと考えてたんですね…？

う、うれしいですけど…！！…なんというか…。

わ、わかりました。大丈夫です。なんでもします。

では…

――再度安眠用BGMを弾く

――左だんだん耳元へ

また寝顔、見せてくださいね…。

おにーさんが…いえ。私の大好きな人の寝顔を見るまでは、帰りませんから…。

／＼しばらく無言

(吐息30秒)

ふー。(溜息)

【おーい、おにいさーん。

寝てますかー？

その、恋人の私がつ　恋人の琴音ちゃんがつ、声かけてますよー】

／＼だんだん正面20cmへ

【ホントに…寝て、ますね

よかった…、それに、私、恋人になってしまった…

どうしょ…どうしよう…】

【ああでも、そうだ…

今度お兄さんが寝たらたくさん甘えようって、思ってたんだ】

【それに、そのっ

こ、恋人ですし？

もう少し強めに甘えても問題ないはずで

ええと…私、恋人なんで…多少は、甘えても、許されますよね？

ユルスヨ(裏声)　は、はい、言質とりましたからねー

その…起こしたら、ごめんなさい…】

ちゅ…

／＼ 左耳元へ

ありがとうございます…。

【毎日美味しいもの、たくさんたべて 何より大好きな人が、そばにいます。
そんなわたしはきっと】

4. after day

温泉旅行

恋人になった琴音ちゃんとあなた

二人で温泉旅館に訪れることに。

※北海道ニセコの昆布温泉峡で収録した音源を使用

／／温泉宿の前

／／山の中の効果音 夕方のイメージ

／／正面20cm

うわぁ 本当に来ちゃいました…温泉宿…。

もう新婚さんそのものですね 私達。うふふ。(妻気取り)

これはもう新婚といっても過言ではないのでは？ふへ。(妻気取り)

／／「バカいてないで、さっさと入って受付けするぞ」

わかってますよお。

言ってみただけです。

／／一人で行くあなた

／／正面50cm

ああ…未来の妻を置いて行かないっ！

／／以下独り言です。

しかし…本当に来てしまった…。

初めての旅行…と…いうことは 初めての…くっ…。

いやこれ、そーいう流れですよねえ。

うーん。うー〱

はっ！私ったら想像だけで浮かれて…これじゃあまるでちーさんです…

ですが…考えてしまいますね…いろいろと

う、うう〱

〱 右前30cm

〱 お部屋へやってくる

oh…

外は年季が入った感じでしたがお部屋は随分立派というか

え！ 大浴場の他にお部屋にうち風呂までついてるんですか！？

〱 顔面蒼白になる。

大丈夫ですか？おにーさんそんな甲斐性があるなんて…

私にいいところ見せようと無理されてませんか？（ちょっとうれいけれど）

〱 目を合わせず下を見ながら

…別に私はおにーさんと一緒ならどこでも構わないですけど〱

〱 「ていうか、お前おにーさんって。俺はお前のこと琴音って呼んでるんだけど。」

あ〱 変ですよ。恋人同士なのに未だに「おにーさん」なんて。

でもいざ名前で呼ぼうとするとさし障りがあるというか 顔がとんでもなく熱くなるという
か…。

あーまあ…変ですねー、確かに。恋人！ 恋人同士なんですから！

ただまあ…名前で呼んだら少し平常心が保てなくて…今練習中でして…。

／＼ 「なんなら俺に名前で呼ばせようとしてたよな？」

そ、そりや以前私のこと無理やり名前で呼ばせようと思いましたけれど…

それはそれっ これはこれですっ！

／＼ だんだん左前30cmへ

いいからっ！お風呂っ！お風呂行きますよ！？

内風呂じゃないですっ。大浴場です！！

／＼ 挑発するように言う

／＼ だんだん正面20cmへ

ま、まあでも、おにーさんがどうしても一緒に入ろうって言うんでしたら

私はやぶさかでないですけど…？

／＼ 「ばかっ！さっさと行くぞ。飯まであんまり時間ないし」

／＼ やっぱりヘタレだと笑うように

くすくす…はいはい。ご飯に遅れないようにですね…。

長風呂は厳禁ですからね。

――「ご飯食べ終わったあと

――正面30cm

ふあ〜。美味しかったあ。

やっぱり旅館はいいものですねえ。

なんですか、こっちを見て。

――「いや、お前が俺以外の飯食つてるところ初めて見たなって」

当たり前じゃないですか。私だつてご飯食べなきゃ動けな…

は〜ん。さては 私がおにーさん以外のご飯を美味しそうに食べてるのが悔しんですねえ？
(どやあ)

――「うっ！」

ふふ、安心してください。

おにーさん以上に美味しいごはんを作る人なんていませんよ。

少なくとも私にとっては。

――「餌付けされたらホイホイついていきそーだけどな」

餌付けされたらなんでもホイホイって。失礼なつ、あたしは奈良公園の鹿ですか。

はっ！食べ物といえば、今日はキーボード持ってきてないです…

おにーさんが寝れなくてやばいことに！

――「ならんならん。」

うーん、でも今回の旅行で多大な出費をさせたわけですし、
なにかできることは…。あつ。

／＼綿棒をもってくる。

／＼右前 できるだけ遠くから

あつた。

おにーさん。綿棒！こーいいうのどうですか？

／＼座り込んで、膝をぼん、ぼんと叩く。

／＼右前 30cm

耳かき、してあげます！

どーです恋人っぽいでしょ？（どやあ）

これぞ恋人同士の営み…！

／＼「お前、名前呼ぶのは恥ずかしいとか言う割に、
変なところ大胆だよ
な」

いいからっ！ こっち来てください。

／＼耳かきの体制。

／＼右耳 15cm

はあ… はあ… はあ…（若干興奮気味）

い、いきますよ。いきますですよ！？

／＼「こわいこわいこわい…！」

ダイジョーブ！ 琴音ちゃんにまかせてください

人に耳かきなんてもちろんしたことありませんが、愛さえあれば関係ありません。

／＼ 耳かきスタート

そおーつと そおーつと。

うりっ うりうり…。

ど、どーですか？ 私の耳かきテクはあ。

琴音ちゃんの太ももで膝枕される心地はあ…。

意外と上手でしょー。 幸せ過ぎて、どーにかなりそーでしょー。

くーりくりくりくりくり…くりくりくりくり…。

お顔、もう少し近づけていいですか？

／＼ 右耳元へ

／＼ だんだんゆっくりと寝かしつけるように。 ささやき (有声音が1／2
割程度でお願いします)

はあ／＼ ふう／＼ ふう／＼ ふう／＼ (2／3秒伸ばしてください)

気持ちいいですか？

…そ・れ・と・も、どきどきしますか？ (うざめ)

うふっ。 いつもみたいに目えとじていいですよ…

(耳かき吐息 20秒)

自信なさげな女の子 あったかい雰囲気

なんか、わたし。『あなた』の寝顔を見てると安心するみたいです。

これってアレですかねえ…。

やっぱりどこかで怖がつてる…のかも…です。

なんとかしたら…怖がつてるのかもしれない。
 なんとかいうか…やっぱり私は…その、『あなた』の寝顔を見てるの、好きです。

わたしの音で寝れなくなったらやだなあ……って。

寝顔を見ることで、自分がおにーさんのそばにいる理由。

ああ……わたし、ここにいていいんだなあつて
納得してる自分がいます。

おにーさんはそんなことどーでもいいって言うてくれますけどね。

今はもう、ピアノを弾くのと同じぐらい、癒やしてあげることが大事なんです。

だから：今日は音楽はないけれど、

これで気持ちよく寝てくれたらうれしいなーって。

だんだんここからうざかわモードで

くーりくりくりくりくり。くーりくりくりくりくり。

ほお：声が気持ちいいですか？

おにーさんが好きなのは私の声だけですかあ？（ちよいうざめで）

太ももとかあ、吐息とかあ…そういう女の子っぽいところはあ？（ねえ、ねえと前めりな感じで）

おにーさんは私の膝の上にいるんですよ？

ふふ…意識してますね。照れてます。

／＼うるさいとそっぽを向く

わたしもね… 旅に出る前は、ドキドキして眠れないほど緊張してたんですよ…
はい…。

意外は余計です。

繊細な美少女ピアニストですよ。ふふ…。

ふーーーーー。

…幸せですね。 （うざくなくて大丈夫です）

おにーさんも？

おにーさんも幸せですか…？

はーーーー。

なにか言いなさい…。幸せでしょうよ？

それとも…私の膝があまりに気持ち良すぎてもう眠くてまぶたが閉じてしまったか？

ふふ…

眠る前に反対のお耳を。ほらー くるーってして。

正面10cm

そそ。

／＼顔がこっち向きになる。

あ…。

いえ、お顔がよく見えるなあって思っただけです。

いえ…顔、よく見えるなあって。

／＼左耳元へ

続けます。

つ、続けますね？

くーりくりくりくりくり。くりくり…くりくり…

内湯の音ですかね…。

ここまで聞こえています。

温泉来たんだなあってなりますね…。

…一緒に入りたかったですか？

…お風呂。

…。

…ふふ。正直でよろしい。

そーですねえ…。

おにーさんが私の耳かきに耐えて、眠らなかつたらその時考えましょ？

しよ、正直ですね…。

うん、まあ…その…おにーさんが私の耳かきで眠らなかつたら…その時は…やぶさかではな
くて…。

…。

一緒に入るのが嫌…とか。

あるわけじゃないですか。

これでも、わたし あなたのことが好きなんですから…。

ご存知でしたか？ ふふ…。

くるくる…くるくる…。お、おっきいのとれましたね。ふふ…。

1粒たりとも残らず私が駆逐してやります。

／＼（やんわりといき ゆっくりめ）

はあ…はあ…はあ…。

ただ…いくらおにーさんでも女ごころは多少なりともわかりますよね？

どんなに好きな相手でもやっぱりいざつてなると尻込みするものです…。

なんかこう…がっかりさせてしまったら…とか 考えてしまうんです？

は、はあ！？

それなりにあるじゃんって セクハラですか！？

／＼自分のスタイルのことはよくわからないが、よく見られていることに対して喜んでいいか怒っていいかわからずにいる

うつ／＼うう／＼。エッチですって！

鼓膜突き刺しちやいますよ！？

もういいです。静かにしてください。

（耳かきやんわり吐息（30秒））

…ね。ねえ…？

あれ？

おにーさん…。起きてますか？

動かぬ…。

おにーさん！愛してますよ？

／＼こくつと、頭がうごく

頷くだけですか…？

それじゃ寝てるのか、「俺も」。と言ってるのか判別つかないですよ？

ふーーーーー。

ふふふ…。

でも…お耳が赤くなってるから許します。

ふー……。。

きもちーんですね。

くりくり…くりくり…くりくり…。

ふふ…『今日は』私の勝ちってこといいですか？

じゃあ…一緒にお風呂はおあずけですね。くすくす…。

さあ…どうでしょうね…。

あなたが本気出してきたら…それはそれで嬉しかったかもしれないですよ？

なんですか、その顔は…／＼

ほら、負けたんですから、寝る寝る…／＼

それじゃあ、まあ…とりあえず「今日は」私の勝ちということで。

一緒にお風呂は…お預けということ…い、いやいや、残念がってないですって。

あー、もう、その顔やめてくださいって、もー。

ほら、負けたんだから寝てください！ねーるー！

…まったく。

…うりうり…うりうり…。

ふあ……。。

私も眠くなってきたなあ…